

真宗佛光寺派
大阪教区・
別院だより

大悲

第19号

平成27年(2015年)
10月1日 発行



秋色に染まる「中央公会堂」

「聖戦」は「神聖な目的のための戦争・正義の戦い」と辞書にはあるものの、国家のエゴが引き起こす戦争は、最大の暴力であり、人権侵害・環境破壊行為ではないのか。

かつて日本は「アジアの解放」という「聖戦」の名のもと、国家総動員の体制下、戦争へと突き進んでいった。結果国内外に幾千万という多大な犠牲者を出し、国土は焦土となった。この時多くの宗教教団には戦争に追従していた歴史がある。武宮聰雄師は「聖戦と名の戦争の罪が、人間そのものの無明の罪である」と思い知らされたという。

この戦争の反省より、戦後日本は国際紛争で他国の人を一人も殺さず、誰一人殺されることなく平和の礎を築いてきた。広島の原爆資料館前には「過ちは二度と繰り返しません」という碑が建てられている。戦後七十年の今年、今一度釈尊の言葉を噛みしめたい。「我が身に引き比べて、殺してはならない。殺させてはならない」(法句経)

(長田 譲)

と う ひ が ん 到 彼 岸



～大阪別院
彼岸会法話より～

光圓寺 かつべ まさのり 勝部正典

くコンビニ、病院……。毎日見ている
景色の確認でした。

しかし、毎日見ていて完璧に熟知し
ているはずの景色なのですが、真上か
ら眺めると、方向、位置関係や距離感
が結構ズレていることに気づきました。
きっちり見ているようで見ていないも
のなんですね。

思い通りには

先日、自坊本堂内陣の照明を流行の
LEDに替えました。すると仏花や色
衣の色が鮮やかになり、お内陣が華や
かになりました。また、ご門徒さん
にも喜ばれました。

さらには年配のご住職方からは「経
本が読みやすくなってありがたい」と
好評でした。明るくなってよかったと
喜んでいたのですが、ひとつ問題が。

明るくなったことで、仏具のお磨き
が不十分であったことが明らかに。今

まで薄暗いお内陣では見えなかった仏
具のくすみが、明るくなったことでは
つきりと浮かび上がったのです。

照らされて

私自身、自分の眼は確かだと思っ
ていました。しかし展望台にのぼれば日
頃の景色とズレていることに気づかさ
れたり、本堂の照明を明るくするとい
いことばかりだと思っていたのがそう
でなかったり。

仏さまのお照らしを受けるとは、自
分の眼が確かだと思っ生きていた私
自身の思い込みが破られることだとい
ただいています。

(平成27年3月18日勤修の

大阪別院彼岸会法話より)



如^{によ}是^ぜ我^が聞^{もん}

親鸞聖人のお手紙に聞く

中国教区・常福寺 日下貴行^{くさか たかゆき}師



平成27年6月8日、日下貴行師を講師に迎え、さつき会研修会が開催されました。

親鸞聖人のお手紙は、聖人の帰洛後、主に関東にいる門弟たちに出されたもので、今現在、43通が確認されています。

その大部分は、教えに関するものですが、中には自身の健康や近況について語られているものもあり、聖人のおあたかな人間味に触れることができる、貴重なお聖教です。

今回取り上げます一通には、

最晩年である88歳の日付が

ありますが、このお手紙の中で聖人は、約50年も前に、ご自身が直に触られた、師である法然上人のお姿と言葉を、つい昨日のことのように思い出しておられます。

愚者^{ぐしゃ}になりて

それは、「浄土宗の人は愚者になりて往生す」という師の言葉が、聖人にとって88歳の今も、身の事実を照らす教えとしてはたらいていたことを示すものでしょう。

私たちはともすると、教えを知識として自分のものにしてようと捉われてしまいます。

そのような姿を聖人は同じく88歳の時に詠まれたご和讃の中で「おおそらごとのかたち」、つまりは、大変虚しい姿であると教えてくださいます。

どこまでも凡夫である我が身にこそはたらく教えであるはずなのに、私の目の前まで届いているはずなのに、教えを届けようとされる本願のお心を、私自身が大変虚しいものにしてしまっているのです。

聖人が最晩年になってなお、課題とされていたことを思えば、私たちが、教えを頭ではなく、身の事実として聞き続けていくことの難しさ、そしてそのような私たちだからこそ、常に照らし続けようとする本願に込められた大きな慈悲心を、思わずにはおれないということでした。

聴聞

今回、「聴聞」について考えさせられました。知らなかったことを聞き、知識を得たと喜び、今日の話は良かった、悪かったなどと評価する側にいる自分がいるのではないか。「聴聞」に「ゆるされてきく」と左仮名を施された聖人の姿勢に今一度、我が身が問われてきたことでした。

(門川崇志 記)

大阪探検

梅田スカイビル

大阪・梅田の西側に地上40階建て173mの連結超高層ビルがあります。それは世界的評価を集める梅田スカイビル。

未来の凱旋門

2008年には英国タイムズ紙にてタージ・マハルやパルテノン神殿などと並び、二本のビルの間にかかる展望台が評価され日本で唯一「世界の建築TOP20」として紹介されました。それ以降、未来の凱旋門として外国人観光客や海外の建築家にも認知され、訪れるべき大阪のランドマークとして注目されています。

地下エリアは滝見小路と銘打って、昭和レトロを感じられるスペースがあり、食事ができ、

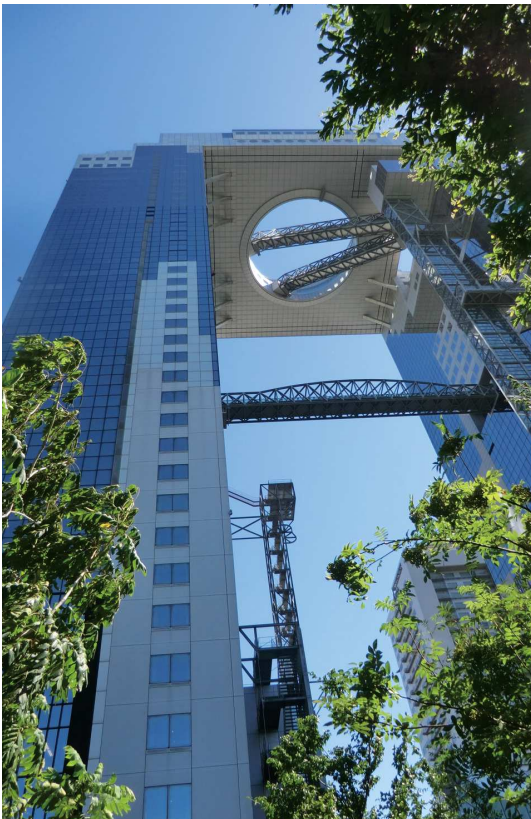
初夏には蛍を鑑賞するイベントがあります。39階には本格中華を味わえるお店があり、食事を楽しみながら大阪を一望するのもまた格別です。

空中庭園

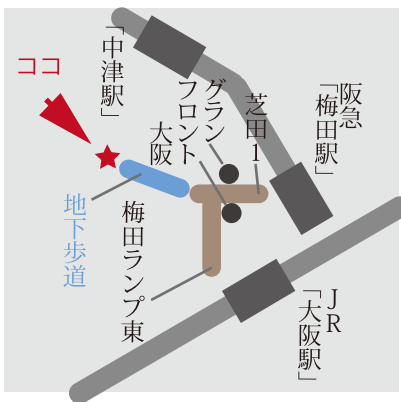
屋上の40階は有料の展望台となっており、天井のない開放的な空間で360度見渡すことができます。北側には伊丹空港を発着する飛行機が眺められ、東にはグランフロント大阪が間近に見えます。南には天保山大観覧車やUSJ、西には大阪湾が遠くまで広がり、視界の良い日には神戸の街や明石海峡大橋、さらに淡路島まで見えます。

また夜の10時まで夜景を楽しむこともできます。一度行ってみられてはいかがでしょうか。

(寿栄松正顕)



梅田スカイビル



大阪市北区大淀中丁目1番
tel 06-6440-3855

空中庭園入場料
大人 800 円
中学生 500 円
小学生 300 円
幼児 100 円 (4 歳以上)
シニア 700 円 (65 歳以上)

大阪の

ごえんさんを訪ねて

みょうえんじ

妙圓寺 (高槻市)

あしな

筆名

あきら

彰 住職

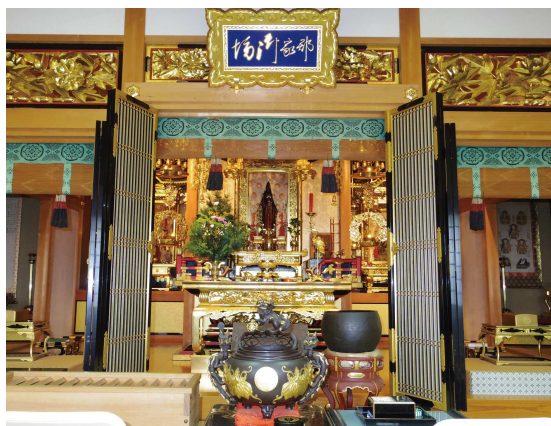


妙圓寺本堂

高槻市郡家本町にある妙圓寺は蓮如上人の門弟主計かすえが文明元（一四六九）年に創建しました。その後、寛延元（一七四八）年に佛光寺派へ転派しました。

境内には上人が腰掛けてご法話された腰掛け石や、上人六十三歳のお姿といわれる木像も安置されています。

住職は平成四年、大阪の大谷派寺院から入寺、平成十九年に住職を継職されました。



内陣

また本誌『大悲』の編集メンバーでもあり、「まあ面白いお顔、柔らかな物腰、温和な性格で『大悲の会』のオアシスのような存在」と本誌第9号で紹介されました。

手作り

平成十一年から各法要においてご門徒さんにお配りするお斎やお茶菓子は坊守さんの手作りです、皆さんにとっても好評だそうです。

今では三人の娘さんたちも一緒

に作っておられ、住職も慣れない手つきで手伝っているそうです。

定番は栗の渋皮煮、桜餅、筍ごはん等々。住職曰く「妙圓寺は坊守の手料理でもっている」と笑っておられました。

大阪別院輪番就任

今年八月、中井賢隆師の退任に伴い、大阪別院輪番に就任されました。就任に際して「今は佛光寺派の三別院の維持がいずれも大変な時代を迎えているが、課題を抱えながらも皆で一緒に聞法できる別院でありたい」と抱負を語っていただきました。

（玉出宗順）

■妙圓寺（みょうえんじ）

〒569・1131

高槻市郡家本町41番5号

電話 072・685・1554

Fax 072・685・1554

大悲トピックス

■大阪別院輪番交代

8月1日、大阪別院の輪番が中井賢隆氏(最勝寺住職)から葦名彰氏(妙圓寺住職)に交代しました。



法友会研修会で輪番交代のあいさつをする中井氏(左)と葦名氏

それに先立ち、7月24日の法友会研修会のあと、研修会に参加した住職を前にあいさつがありました。

中井氏は「二期八年間、勤めさせていただきましたが、別院にて宗祖親鸞聖人750回大遠忌法要を厳修できたことが特に印象に残っています。五十年に一度の巡りあわせで輪番を勤めさせていただくことができ本当にありがとうございましたことだと感じています。また別院本堂の修復にあたりましては教区寺院の皆さまに深く感謝いたします」と謝辞を述べました。続いて葦名氏は「お寺の次男として生まれ、二十歳で得度式を受け、僧侶として三十年経ちました。仏教が解りたい、仏法に救われるとは何かと、聞法を大切にしてまいりました。この度、輪番という重責に、なお一層仏法聴聞に励み、解かりやすい法話を心がけ、別院が心穏やかにお参りできる場となるよう努力してまいりたいと思います」と抱負を述べました。

■懇志御礼

三重県亀山市 長徳寺様
奈良教区 御一同様

御本山 **近** 用達

株式会社 **川勝法衣店**

フリーダイヤル 0120-075-055
(〒600-8344) 京都市下京区花屋町通油小路東入

電話 (075) 371-0367(代)
FAX (075) 371-5088

御本山佛光寺御用達

井筒法衣店

〒600-8503
京都市下京区堀川通新花屋町角(西本願寺前)

フリーダイヤルTEL 0120-075-720 番
フリーダイヤルFAX 0120-075-490 番

- 大正三年創業の信頼と実績 -

石留石材株式会社

各種石塔・石仏・記念碑
寺社建築石材まで

○ご相談は下記フリーダイヤルへ 携帯・PHS OK

0120-53-5578

[本社・工場・展示場] 藤井寺市津堂2丁目9番29号

(株) 小林造園

代表取締役: 小林正典
〒603-8442
京都市北区西野山東町 36-1

tel 075-491-4256
fax 075-491-9432

燦ホールディングス グループ

まごころ葬儀を創造する。

公益社

公益社 ご葬儀相談センター (24時間・365日受付・通話料無料・携帯電話OK)

0120-567-701

※2012年5月現在 2-0131

燦ホールディングス グループ

なごみ庵

きた・は・ま
KITAHAAMA

法要料理 希望の場所までお届けします。

■四條畷店 0743-78-7521
■瓜破店 06-6769-0140
■伊丹店 072-773-7531

※2012年5月現在 2-0132

だいひ 絵日記

- 7月14日(火) 大悲の会編集会議(第19号読み合わせ)
 7月24日(金) 法友会研修会(最近の葬儀についての問題点・講師:天岸浄圓 師) ①
 7月28日(火) 佛青懇和会懇親会
 7月28日(火) さつき会研修会(本山坊守研修会参加)
 8月13日(木) 大阪別院盂蘭盆会(～15日)
 8月18日(火) 大悲の会編集会議(第19号読み合わせ)(高照寺にて) ②
 9月7日(月) さつき会研修会(親鸞聖人のお手紙に聞く・講師:日下貴行 師)
 9月16日(水) 法友会研修会(現代社会の中の真宗[2]・講師:泉 英明 氏)
 9月20日(日) 大阪別院彼岸会(法話:門川崇志 師)
 9月23日(水) 大阪別院彼岸会(法話:玉出宗順 師)
 9月25日(金) 大悲の会編集会議(第19号発送作業・第20号内容検討)
 9月26日(土) 大阪別院彼岸会(法話:隅谷俊紀 師)

(法友会=住職会、さつき会=坊守会、佛青懇和会=青年会)



 株式会社 **モントラベル**
 〒550-0013
 大阪市西区新町1-8-1 行成ビル
 TEL. 06-6531-1344
 FAX. 06-6531-1346
<http://www.monto.co.jp>
 仏跡参拝ならお任せください!

浜屋は関西最大級の
 お仏壇・お仏具・墓石・御寺院お仏具の
 専門店です。
 やすらぎの
 世界を創る  **浜屋**
 通話料無料/浜屋姫路本社フリーダイヤル
 お問い合わせ
 お申し込みは **0120-1616-94**
 ●受付時間/午前10時～午後6時30分

ご寺院、お役に立てる商品が、
 きっと見つかる情報誌!
 寺がある、法が活きる、寺の友社。
 株式
 会社 **寺の友社**
 〒611-0002 京都府宇治市木幡平尾54番地の2
 TEL 0120-7676-39 FAX 0120-7676-29
<http://www.teratomo.jp>
 ご希望の、ご寺院には、無料カタログをお送りします。

協 賛
法 友 会
さ つ き 会
佛 青 懇 和 会

「大悲の会」御用達

 地下鉄御堂筋線あびこ駅前
 tel. 06-6696-6880
 〒558-0011 大阪市住吉区荻田 7-5-20
 さつきマンション 1F

京
 懐
 石
和光菴
 慶事、仏事、各種会合等の際は、
 和光菴の仕出し料理を
 御利用下さい。
 株式会社 和光菴
 〒543-0073 大阪市天王寺区生玉寺町3-32
 TEL06-6774-8090 www.wakouan.co.jp
 西天満店 結心(ゆいごころ)
 〒530-0047 大阪市北区西天満4-10-5-1 階
 TEL06-6809-6311 www.yuigokoro.com



どなた様でもお参りいただけます

法要・法話会のご案内



本山佛光寺茶所布教

毎日午前 7 時半

※大阪教区布教使の担当は下記の通りです
12 月中旬 葦名 彰 師（妙圓寺）

◎仏願寺（大阪市東住吉区・06-6702-0994）

11 月 14 日（土）午後 2 時

「定例法話会」法話：都呂須孝文 師

12 月 14 日（月）午後 2 時

「定例法話会」法話：天岸淨圓 師

大阪教区寺院で開催される法話会

◎高照寺（堺市北区・072-252-2122）

11 月 21 日（土）午後 3 時

「聞法の集い」法話：佐々木太一 師

※詳細は各寺院にお問い合わせください

大阪別院・報恩講

10月27日(火)午後2時より

勤行・法話・挨拶

法話：大谷義博 師（島根・阿弥陀寺）

編 集 秘 話

毎年、金木犀の香りがする頃、長年、報恩講布教に来て下さっていた伯父を思い出します。伯父は常に聖人の教えを身近な言葉で伝えてくれました。今、自坊の報恩講布教をするようになり「わが身を通して教えを頂いているか」と香りを聞くたびに伯父から問われている気がします。(玉出)

編 集 後 記

「香り」という言葉ひとつとっても「香りを嗅ぐ」と「香りを聞く」では、受け取る側の印象が異なってきます。文章は永遠に残ります。限られた文字数で、どのような言葉を使い、どのようにお念仏の教えをあらわしていくのか。編集者個人の意識と、編集会議の意義が問われているような気がします。(隅谷)

大阪教区・別院だより『大悲』 第 19 号（秋号）
平成 27 年（2015 年）10 月 1 日発行（発行部数 2100 部）
発行：大悲の会
事務所：佛光寺大阪別院内
〒558-0011 大阪市住吉区荻田 6-11-24 電話 06-6691-1362
郵便振替口座：口座番号「00990-4-305218」加入者名「大悲の会」
大悲ホームページ <http://daihi.org/>

大悲の会
長田 譲(会長) 佐々木太一
隅谷俊紀(副会長) 葦名 彰
寿栄松正顕(会計)
玉出宗順(会計)
門川崇志(監事)